

2014 年度（対象年度：2013） 自己点検・評価シート【大学全体の視点】

基準 10 内部質保証

I. 自己点検・評価

1. 点検・評価項目等に基づく状況確認 《評価形式》

自己評価欄に「A：適切に実行している」「B：概ね実行している」「C：あまり実行していない」「D：実行していない」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目	点検項目	自己評価	
			個別	総合
1001	大学の諸活動について点検・評価を行い、その結果を公表することで社会に対する説明責任を果たしていますか。	①年度ごとに自己点検・評価を行い、その結果を社会に公表していますか。【※どのように】	B	B
1002	内部質保証に関するシステムを整備していますか。	②自己点検・評価を改革・改善に繋げるシステムを整備していますか。【※どのように】	B	B
		③独自の外部評価を実施し、学外者の評価を自己点検・評価に取り入れていますか。	C	
1003	内部質保証システムを適切に機能させていますか。	④自己点検・評価データベースは有効に活用されていますか。【※どのように】	C	B
		⑤教員活動自己点検システムは有効に活用されていますか。【※どのように】	B	
		⑥文部科学省および認証評価機関等からの指摘事項について適切な改善を行っていますか。【※どのように】	A	
		⑦自己点検・評価の実施により各組織の改善が進んでいますか。【※どのように】	B	
		⑧評価を改善に繋げる主体的な評価文化の醸成を図っていますか。	B	

2. 現状説明 《記述形式》

対象年度における取り組みを、点検・評価項目の観点から、改善状況を含め総括してわかりやすく説明してください。点検項目欄【※どのように】と記載のある項目は、取り組み内容を具体的に、記述してください。

① 自己点検・評価の実施とその結果公表は、学校教育法第 109 条に規定・義務化されている。本学においては、内部質保証の方針である「龍谷大学内部質保証のあり方について」（2010 年度第 42 回部局長会<2011 年 3 月 3 日開催>）に基づき、「機関（組織）としての自己点検・評価」と本学の教育研究等を支える「教員個人の諸活動に対する自己点検」という 2 つの視点から大学の質を自ら保証（内部質保証）することとし、「自己点検・評価制度」と「教員活動自己点検」を 2011 年度から毎年度実施している。

結果公表については、「大学評価に係る公表の方針」（2012 年度第 7 回全学大学評価会議<2013 年 2 月 28 日開催>）において公表の基本姿勢、範囲、方法を定め、これに基づき、2011 年度、2012 年度は「全学的な課題一覧」を本学 web ページにて公表した。2013 年度は「全学的な課題一覧」に加え、大学全体の視点に係る自己点検・評価シートを本学 web ページにて公表した。なお、各組織の自己点検・評価シートは現段階では公表対象とはせず、改善に繋がる評価を目指している。以上から、年度ごとの自己点検・評価を実施し、その結果を適切に社会に公表していると評価する。

② 本学における内部質保証システムとして、自己点検・評価制度を導入し、全ての学部・研究科、教養教育、学部共通コースに自己点検・評価委員会を設置している。加えて、単一組織では取り組むことが難しい「全学的課題」を抽出し、部局長会が主体となって改善に取り組む仕組みを整備している。また、教員活動自己点検を導入し、教員個人の活用のほか、学部・研究科や学部横断的な組織（教養教育、学部共通コース）での活用

も視野に入れ、運用している。以上から、評価を改善に繋げる仕組みを概ね整備していると評価する。

なお、大学評価に関する規程・細則について、規程と実態に齟齬が生じている。2013 年度に担当理事及び大学評価支援室にて改正の検討を行ったが、提案には至らなかった。2014 年度に改正する予定である。

- ③ 法人として、毎年度、株式会社格付投資情報センター（R&I）の格付評価を受け、各組織においては、アドバイザリーボード（経済学部）や JABEE（理工学部）など、学外者の評価を取り入れる取り組みがなされている。自己点検・評価制度と連関した全学的な外部評価の導入は継続課題であり、2013 年度に大学評価支援室において検討を行ったが、提案には至らなかった。評価を改善に繋げる、実質的で本学に適した外部評価のあり方を引き続き検討する。以上から、部分的には学外者の評価を自己点検・評価に取り入れているものの、自己点検・評価制度と連関した形で全学的な外部評価は未整備であり、改善課題であると評価する。
- ④ 自己点検・評価シート及び根拠資料を格納し、各組織が学内 LAN を介して自由に閲覧できる「自己点検・評価データベース」の運用を 2013 年 5 月から開始した。2014 年 2 月には、本データベースの活用推進に向け、新たに閲覧専用の ID 等を配付し、教育職員も利用しやすい環境を整えた。以上から、利用環境は整備したが、活用は現段階では十分にはなされていないと評価する。
- ⑤ 教員活動自己点検の入力負担を軽減し、Web シラバスや研究者 DB とリンクさせた利便性の高いシステムとして「教員活動自己点検システム」の運用を 2012 年度期末入力から開始している。2013 年度は、学内の役職、諸委員や REC 講座講師等の情報が自動で表示される機能をリリースした。2013 年度のシステムの入力率は、95.8%であった。以上から、各教員や教務課の負担軽減、効率化が図られ、概ね活用されていると評価する。
※教員活動自己点検については、基準 3 のシートで点検・評価する。
- ⑥ 文部科学省の設置計画履行状況等調査における指摘事項については、1 件の留意事項が付され、文部科学省に報告した改善計画に基づき、適切に改善を進めている。2012 年度以前の認証評価において認証評価機関（大学基準協会）から受けた改善指摘については、計画的に改善に取り組み、2013 年度の大学・短期大学認証評価受審に際しては、その進捗状況も含め報告書を作成し、実地調査を受けた。その結果、前回認証評価から継続する改善指摘はなされなかった。以上から、指摘事項について適切な改善を行っているとは評価する。
- ⑦⑧ 自己点検・評価の実質化については、点検・評価を行うボリュームや質、評価項目の適切性など、制度の継続性を見据えた本学独自の評価システム構築が課題であり、継続して取り組んでいる。2012 年度においては、実施スケジュールを前倒しし、評価・改善のタイムラグを少なくした。

2013 年度においては、自己点検・評価シートを改訂し、評価の負担軽減を図るとともに、より大きな視点で本学の実態にあわせた点検・評価を行えるようにした。その結果、多くの組織は負担が軽減し、シート間の関係性や前年度の課題を意識した上で点検・評価が行われたことで、よりの確な記述をすることができている。また、3 年間の制度実施を経て、自己点検・評価に係わる人も変わっていくが、各組織での引き継ぎや共有のためのツールとして活用される例もある。エビデンスも継続的に蓄積されつつある。

シート改訂による効果は出ているものの、依然として評価に留まり改善に結びつかない等の形骸化の課題は残っている。また、各組織と評価委員との間で評価の視点が定まっていない項目があり、双方が共有できる状況にする必要がある。このため、2014 年度の学部・研究科、教養教育、学部共通コースのシートについては、基準ごとに趣旨やポイントを記載するよう改善を加えた。今後は、シート枚数のさらなる効率の削減等を継続的に検討する必要がある。

なお、2013 年度大学認証評価の評価結果では、本学の内部質保証システムが長所として取りあげられ、大学基準協会の認証評価実務説明会において、事例報告校にも選ばれた。

以上から、内部質保証システムを概ね適切に機能させていると評価する。

〔改善すべき点の確認〕 前回の点検・評価で、自ら「改善すべき点」と掲げた事項や、評価結果で「改善すべき点（【改善勧告】【努力課題】【留意点】）」とされた事項があれば、この欄に箇条書きで記載してください。

- ・教員個人の自己点検・評価として調査されているデータを、組織的に活用するにあたって留意すべき点は何か、どのように活用できるか、検討を開始し、具体化に取り組まれない。【留意点】
- ・評価疲れや形骸化しないよう、実のある制度改善に向けた努力が求められる。【留意点】
- ・教員活動自己点検システムの活用の有効性については触れられておらず、現状説明において記述されたい。【留意点】
- ・規程と実態に齟齬がある旨、現状説明において記述されたい。【留意点】
- ・大学評価に関する規程・細則の改正
- ・外部評価導入の検討

3. 効果が上がっている点とその伸長方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、効果が上がっている事項（特色ある取り組みや成果創出など）とその伸長方策を記述してください。
・内部質保証の2制度（自己点検・評価、教員活動自己点検）は、毎年度、全学大学評価会議において総括を行い、シート改訂など必要な改善を行うことにより効果を創出できている。今後も毎年度の総括を継続し、改善を進めていく。

4. 改善すべき点とその改善方策 《箇条書き》

現状説明を踏まえ、改善すべき事項とその改善方策を記述してください。
・大学評価に関する規程・細則について、規程と実態に齟齬があるため、2014年度に改正を行う。
・評価を改善に繋げる、実質的で本学に適した外部評価のあり方を引き続き検討する。

5. 根拠資料 《リスト形式》

項目 No.	根拠資料の名称
1001	龍谷大学内部質保証のあり方について（2010年度第42回部局長会承認）
1001	大学評価に係る公表の方針（2012年度第7回全学大学評価会議承認）
1001	自己点検・評価（内部質保証）＜本学webサイト＞ http://www.ryukoku.ac.jp/about/outline/evaluation/evaluation.html
1002・1003	2013年度 自己点検・評価に関する総括について（2013年度第3回全学大学評価会議承認）
1002・1003	2013年度 自己点検・評価 評価結果（原案）に係る各組織との説明・意見交換の実施結果について
1003	自己点検・評価データベースシステム 操作マニュアル（簡易版）
1003	教員活動自己点検システム 操作マニュアル（簡易版）
1003	設置計画履行状況等調査の結果について（通知）

II. 評価結果

総評
4年目を迎えた自己点検・評価制度も改善を重ね「機関（組織）としての自己点検・評価」と「教員個人の諸活動に対する自己点検」の2つの視点で大学の質を自ら保証することが確立しつつあること、2013年度に受審した基準協会大学認証評価結果後には事例報告校に選ばれるなど、内部質保証システムの構築という点では評価できる。 しかし、自己点検・評価者、大学評価委員会委員による評価、双方に「点検項目」に対する理解不足が見られる。双方の質の向上を図り、現状説明にもある各組織の評価疲れや形骸化に対する危機解消についての施策を検討されたい。
伸長すべき点（長所） 《箇条書き》
自己点検・評価制度も改善を重ね「機関（組織）としての自己点検・評価」と「教員個人の諸活動に対する自己点検」の二本柱で大学の質を自ら保証することが確立しつつあることは評価できる。
改善すべき点 《箇条書き》 ＊各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
自己点検・評価者、大学評価委員会委員による評価、双方に「点検項目」に対する理解不足が見られる。双方の質の向上を図り、現状説明にもある各組織の評価疲れや形骸化に対する危機解消についての施策を検討されたい。 【留意点】
※【改善勧告】【努力課題】は、改善計画書の提出が必要

III. 大学基準協会からの助言について

助言内容
【認証評価結果 長所】
1) 各組織の自己点検・評価の結果を、「全学大学評価会議」が学内第三者的な立場で評価し、その結果を各組織が組織的に改善に役立っていることは評価できる。また、内部質保証システムを確立すべく、法務課の設置や外部評価の積極的な活用を図り、貴大学における諸活動の改善につなげていることは評価できる。